Asahi
ASAHI University News Letter
隔月1日発行
November
2011 vol.75
朝日大学
http://www.asahi-u.ac.jp
編集・発行／朝日大学 入試広報室

朝日大学は、国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間的知性に富む人間の育成をめざします。

復興と新しい日本の創造

朝日本学では、「地域と共に歩む大学として日頃の研究成果を社会に還元する」ことを目的に、1987年度から日常生活に身近な話題をテーマに取り上げた公開講座を開講している。
第25回となる今年度は、東日本大震災をうけ「復興と新しい日本の創造」、「災害と法」、「裁判員裁判と憲法」、「医療と健康」など多彩なテーマで開催。
県内各地において子供から大人まで幅広い層の人々へ学習の機会を提供した。

公開講座で基調講演を行う三菱商事（株）会長の小島順彦氏

Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE
since 2004
2009.4－2016.3
大学評価基準を満たす認定マーク

STUDY

みんなの日本 がんばろう日本人

復興と新しい日本の創造

去る3月11日(金)の東日本大震災では、死亡15,628名、行方不明4,823名を数え(警察庁発表7月25日現在)、今なお大変多くの方々が避難生活を強いられている。

震災前より、世界同時不況後の長引く金融不安と円高、貿易自由化の遅れ、温室効果ガス抑制策など、わが国の経営環境の悪化が指摘されていたが、震災と津波、そして原発事故と電力不足という新たな問題が加わり危機的な状況が今なお続いている。

高等教育機関である大学は、学術の府として高い教養と専門知識を培うと共に、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に還元することで社会の発展に寄与する役割を担っている。震災から半年を経た9月10日(土)、各界のトップリーダーを迎え、瑞穂市総合センター内サンシャインホールで「復興への課題と新しい日本の創造」と題し、それぞれの立場からの提言をうける公開講座が開催された。

各界トップリーダーからの提言

ビジネス・医療・ヘルスケア・環境事業など各分野で日本を牽引する三菱商事(株)の小島順彦取締役会長、岐阜大学大学院医学系研究科の小倉真治教授、(株)トーカイの小野木孝二社長が講師を、大友克之学長が座長を務め、それぞれの分野における取り組みの紹介や、新しい日本の創造に向けた提言がなされた。

県内外から集った約1,100名の聴衆は「新しい日本が向かうべき姿」を想像しつつ講演に聴き入っていた。

大友学長が座長を務める

基調講演

復興に向けた日本の課題

三菱商事(株) 小島会長

グローバルな人材育成の必要性を強調

緊急提言

復興におけるITの役割と将来

岐阜大学大学院 小倉教授

ドクターヘリによる医療供給などを提言

社会的使命の提言

事業フィールドから考える復興支援と震災への備え

(株)トーカイ 小野木社長

節電や省エネ推進など企業の社会的使命を提言

災害と法

9月3日(土)には、瑞穂市総合センター内サンシャインホールにおいて、学術交流協定を締結している岐阜県弁護士会との連携による公開講座が開催された。

朝日大学では、東日本大震災発生直後から医療支援、被災地出身学生への援助、募金活動、放射線量測定など、学生と教職員が力を合わせて継続的な復興支援に取り組んでいる。このことから、「災害と法」をメインテーマとした公開講座が開催された。

いざという時の法律知識

小森弁護士から災害時の手続が解説される

はじめに、中部弁護士会連合会災害復興支援委員会委員で岐阜県弁護士会所属の小森正悟氏から、被災証明書の発行など災害関係法令の解説やいざという時に備え知っておくべき法律知識などについての詳細な説明がなされた。

続いて、本学法制研究所長の籾山錚吾教授(法学部)からは、メディアでは伝えられていない被災状況や原発事故をめぐる実状等について解説がなされると共に、今回の大震災をうけ、国や企業が社会や人々を守るために行うべき取り組みについての提言がなされた。

大震災の実状を語る籾山教授

約500名の参加者たちは、今回の公開講座でいつ起こるかわからない大規模災害に備え、「法的な知識も身につけておくべき」ことを学んだ。

「医療と健康」をテーマに

木沢記念病院と連携

美濃加茂市中央公民館で開催された公開講座では、同市内の木沢記念病院(山田實紘理事長・北島康雄病院長)との連携により、「医療と健康」をメインテーマとし、医療、歯の健康の各分野の専門家による講演が行われた。

木沢記念病院の高見内科部長による講演

健康に対する関心

今回で3回目を迎える美濃加茂市での公開講座開催には、150名を超える受講者がメモをとりながら熱心に聴講、医療や健康に対する関心が高いことがうかがえる公開講座となった。

講演内容	講師
知っておきたい"糖尿病"最近の話題	木沢記念病院内科部長　高見　和久 氏
知っておきたい"歯周病"最近の話題	朝日大学歯学部　澁谷　俊昭 教授 朝日大学歯科衛生士専門学校　荒木　美穂 教諭

社会医療法人厚生会　木沢記念病院
[基本理念]病める人の立場に立った医療、地域から求められる新しい医療サービスの提供
[所 在 地]岐阜県美濃加茂市古井町下古井590

裁判員裁判と憲法

学術交流協定を締結している岐阜県弁護士会の後援を受け、JR岐阜駅アクティブG内のネットワーク大学コンソーシアム岐阜サテライト教室で法学部特別講義として公開講座が開催された。

今回の講座は、将来、法曹や行政、自治体や企業等で活躍するために求められる「法的思考能力(リーガルマインド)」を学ぶこととなる法学部の授業を高校生などが実体験できるという趣旨での開催。

常に学ぼうとする姿勢

わかりやすく裁判員制度を解説する齋藤教授

講師を務めた法学部の齋藤康輝教授からは、「社会や公民」の授業でも重要項目として位置づけられる「日本国憲法」や「裁判員裁判」などについて、内容を深く掘り下げた講義が展開された。高校生や教諭、一般の約80名の受講者たちは有権者のだれもが参加する可能性がある「裁判員制度」などを学んだ。

受講者の知識を吸収しようとする積極的な姿勢が、また、常に学ぼうとする姿が印象的な公開講座となった。

ネットワークコンソーシアム岐阜
岐阜県内22の大学と短期大学、高等専門学校と岐阜県で組織する連合体。
単位互換授業、共同授業や多彩な公開講座の開催などを行っている。

口は災いのもと!

「フロンティアセミナー」を開催

「歯周病」について解説する澁谷教授

瑞穂市とその周辺地域にある大垣共立銀行の5支店が主催する「第21回フロンティアセミナー」が、本学協賛のもと穂積キャンパス1号館大講義室において開催。岐阜市、瑞穂市、本巣市などの市民ら約100名が歯学部澁谷俊昭教授の講演を聴いた。

本セミナーは、大垣共立銀行が進める地域活性化事業の一環として実施している催事で、朝日大学では同セミナーに対し、「大学の知的財産」を地域社会の皆様に還元できればと、第1回目の開催から協賛している。

歯周病から全身疾患へ!

今回のセミナーでは、澁谷教授から「口は災いのもと 歯周病から全身疾患へ」と題して、歯周病の原因、歯周病が及ぼす全身疾患、歯周再生療法などについて実例などを織り交ぜながらの講演が行われた。受講者らは身近な口腔の健康に関するテーマに熱心に講演に聴き入っていた。

このフロンティアセミナーは、今後も半年に一度本学を会場として開催される予定である。

EVENT

症例報告会

穂積キャンパス6号館大講義室において、歯学部5年生による「臨床実習生症例報告会」が開催された。

学びの成果を発表

この報告会は3年前から開催されており、臨床実習生たちの実習成果を発表する場となっている。今回は、登院してから約3カ月が経過したところで前学期の実習成果が発表された。グループごとに行われた報告会では、事前に綿密な準備を行った学生が教員たちを前に「初診時の診断結果、治療計画、実際の治療及び結果」に至るまでの報告をパワーポイントを駆使し堂々と発表していた。

引き続き後学期の臨床実習における学生たちのさらなる成長を期待する。

グループごとに症例が報告される

講演と懇親の会

企業人事採用担当者と交流の場

「2011年度朝日大学講演と懇親の会」が、JR名古屋駅のマリオットアソシアホテルにおいて盛大に開催された。

同会は、本学学生の就職対策の一環として毎年開催される行事で、各企業の人事採用担当者を招き、日頃の本学に対する就職支援への感謝と、本学教職員とのより一層の人事交流を深めていただくことを目的として開催されている。本年は愛知県、岐阜県などの企業を中心に、約250名の人事担当者の参加があった。

今回の講演テーマは「“考える”を育てる危機対応−組織の本性は、いざという時に露呈する−」（講師:経営学部横井祐一准教授）で、東日本大震災や福島原発事故をうけ危機管理体制やその対応が企業の存亡を左右するという講演内容に、参加者たちは真剣な面持ちで聴講していた。

企業の危機対応を語る横井准教授

活発な情報交換

講演会終了後には、会場を移し懇親会が開催された。会場内では各企業の人事担当者と本学教職員約50名とが企業の採用状況、卒業生の近況や社会情勢などについて活発に情報交換を行い、有意義な「講演と懇親の会」となった。

開放型病床研修会

附属村上記念病院で第21回目となる「開放型病床研修会」が開催された。「開放型病床」は、運用開始から12年が経過、登録医（開業医）数は現在183名にのぼっている。

今回、登録医17名、本院職員30名が出席した研修会では、安藤隆病院長から新棟ならびに本館改装工事の進捗状況について、また、事務担当者からは開放型病床運用状況の報告があり、引き続き活発な意見交換会が行われた。

講演会で病診連携を深める

その後、登録医である「加藤脳神経外科クリニック」院長の加藤哲夫氏と「おおしま大腸クリニック」院長の大島健次郎氏が座長となり講演会が開催された。講演では、脳神経外科の郭泰彦教授が「脳梗塞に関する最近の話題」と題し、また、外科の川部篤准教授が「胃癌・大腸癌に対する腹腔鏡下手術の現状」と題し講演を行った。

郭教授が脳梗塞を解説

今話題の施術や日常的な診療に関連する講演内容に、参加者との熱心な質疑応答がなされ、今後の病診連携や開放型病床についてより一層の理解を深める研修会となった。

Change マイライフ

「法と社会生活」の授業（法学部1年次開設科目）において、岐阜県環境生活部清流の国ぎふづくり推進課の市原裕氏（地球温暖化対策監）が講師を務めた「環境講座」が実施された。

「環境」について学ぶ

講座では、清流の国ぎふづくりに向けた県の取り組みや、地球温暖化の状況が解説され、我々が日常生活や諸活動を通じて行うべき省エネのための取り組み「Change マイライフ」について学んだ。授業終了後には、法学部の学生が企画・製作した「エコバッグ」が手渡され、出席者全員でこれまで以上に環境意識を高め「Change マイライフ」を実践していくことを誓った。

「Change マイライフ」を語る市原裕氏

学生が企画・製作したエコバッグ

朝日大学では、2009年度から「エコプロジェクト」を展開し国際未来社会に向け地球温暖化防止策に全学を挙げて取り組んでいる。

歯学部海外4カ国・7大学で研修

STUDY ABROAD

実り多き成果を報告

本学歯学部では、国際的な視野を持ち、幅広く活躍できる歯科医師を育成するために、毎年夏季休業期間等を利用した学生の「短期海外研修」を実施している。

5年生を対象とした海外研修の費用は全額大学が負担。学生にとっては、海外の医療の現場を知る絶好の機会といえる。

今回、海外4カ国・7大学での実り多き研修が終了し、研修成果が報告（提出）された。

アメリカ　5名

カリフォルニア大学ロサンゼルス校

スライドによる自己紹介が国際交流のスタート。歯科医師として「生涯研修における向上心」が重要とのレクチャーを受ける。教員は学生を一人の歯科医師として扱い、学生自身も歯学部生としての自覚を持ち、教育と診療に取り組んでいる姿勢に共感。

アメリカ　5名

テキサス大学サンアントニオ校

ホスト学生や教員の細やかな心遣いに感動。臨床実地教育や臨床研究のための患者数の多さに、「臨床実地教育の重視」をうかがい知る。肌で感じた異国の文化・社会性が国際性豊かな歯科医師を育む。

アメリカ　5名

アラバマ大学バーミングハム校

学生が自分の患者さんを受け持っていることに驚く。毎日、ホスト学生たちと行動を共にし、休日はアトランタやガンターズビル湖へエクスカージョン。全てが英語の生活に不安と違和感、しかしそれも当たり前になり慣れていく自分に驚く。

メキシコ　メキシコ州立自治大学　5名

地球の裏側で、まさに交際交流を実体験。普段陽気な学生の振る舞いが、授業では一転「厳格な講義」へと。勉学に対する「真摯な態度、モチベーションの高さ」を学ぶ。

中国　第四軍医大学 口腔医学院　5名

西安市の旧名称は長安、西周時代から秦、漢、隋、唐の都であり、古代より政治の中心地として発展。軍医を養成する大学で、他の大学では体験できない研修プログラムに参加。

中国　北京大学 口腔医学院　5名

中国最大の歯学部で歯科医学の中心的役割を、充実した施設・建造物で実感。ハイレベルな講義と手術室見学で、「将来の歯科医師」としての自覚がめばえる。

フィンランド　トゥルク大学　2名

トゥルクはフィンランドの古都であり、伝統的な文化を大切にしつつ、新しいものを取り入れる力強さを感じる。トゥルク大学の教育や施設も例外ではない。

TOPICS

「大学広報を考える会」発足

本年開学40周年を迎えた朝日大学では、あらためて大学の広報を考えようと「大学広報を考える会」を立ち上げた。会の発足を記念した講演会が岐阜都ホテル（岐阜市）で開催され、報道機関、広告代理店、出版社など約100名が参加した。

顧客を起点としたマーケティング

講演会では、経営学部の中畑千弘教授が「顧客を起点とする“マーケティングアウト”の発想」と題し講演。顧客側の視点に立った出版業界などの事例紹介がなされた。

中畑教授が記念講演を行う

講演会終了後は、会場を移し情報交換会が行われ、参加者それぞれの業種（立場）から見た今後の「大学広報」についての意見が活発に交わされた。

上級救命講習を受講

岐阜市及び瑞穂市民を対象とした「上級救命講習会」が岐阜市消防本部で開催され、法学部の学生が受講した。

講習修了証が交付される

同講習会は、通常の救急救命講習におけるAED（自動体外式除細動器）を使用した心肺蘇生法や止血法の講習だけではなく、より実践的な乳幼児の心肺蘇生法や外傷手当の手法などについて8時間をかけて学ぶもので、講習終了後には試験も実施される。

学生たちが上級救命講習を受講

講習会に参加した法学部の学生たちは、みごと最終試験に合格し「上級救命講習修了証」の交付をうけた。

海外の歯学部学生を受け入れ

本学と姉妹校協定を締結しているカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の教員2名と学生10名が、短期海外研修のために来日し歯学部で最先端の歯科医療を学んだ。

来日を歓迎し正面玄関で記念撮影

UCLAの学生たちは、穂積キャンパスで藤原周歯学部国際交流委員長から日本の歯学教育や食文化の講義を受講。その後、附属病院や教育研究施設などを見学し、先端的な日本の歯科医療を学び短期海外研修のカリキュラムを無事修了した。

相互交流を深める

研修終了後には、岐阜市内のホテルで修了式が開催され、大友克之学長や田村康夫歯学部長から修了証書を授与。証書を受領する学生たちは充実感いっぱいの笑顔にあふれ、修了記念パーティーでは、両大学の学生・教職員が交流を深めると共にそれぞれが再会を約束していた。

「MSL・MSJサミット」に参加

「MSL・MSJサミット」が開催される

法学部の学生で組織する防犯ボランティア団体「めぐる」が、北方町生涯学習センター（本巣郡）で開催された「MSL・MSJジュニアサミット」に参加した。

同サミットは、規範意識向上や非行防止活動を行う高校生・中学生の自主組織「MSリーダーズ、MSジュニア」の活動事例を発表するサミットで、瑞穂市、本巣市、北方市の中学・高校の生徒ら約300名が出席した。

防犯ボランティア活動

岐阜県警北方署などからの参加要請をうけた防犯ボランティア団体「めぐる」は、地域社会と連携した日頃の活動内容や防犯ボランティア活動を通じて学んだことなどパワーポイントを使い報告。会場に集った生徒や関係者たちは、「めぐる」の報告に真剣に耳を傾けていた。

朝日大学では、今後も地域社会との連携をはかり、地域住民の犯罪防止や防犯意識の向上に努めていくこととなる。

MSL（Manners Spirit Leader）
高校生が組織する規範意識啓発推進委員会

自転車競技
7年連続「総合入賞」をはたす

「文部科学大臣杯第67回全日本大学対抗選手権」が、長野県松本市かりがね競技場ほかで開催され、体育会自転車競技部は「男子総合6位入賞」、「女子総合3位入賞」の好成績を収め、創部3年目からの「男子7年連続総合入賞（女子4年連続）」をはたした。

3種目で3位入賞

強豪校と争い「タンデム」３位入賞を収める

トラック競技8種目及びロード競技1種目の総合成績で争われる「全日本インカレ」には、基準タイムをクリアした全国46大学から295名の学生が出場、「タンデムスプリント、個人追い抜き競走、団体追い抜き競走」の3位入賞をはじめ、5種目での入賞をはたした男子は、伝統ある強豪大学がしのぎを削るなか堂々の「総合6位入賞」という競技成績を収めた。

また、女子部門では、「ロードレース」で準優勝を収めた明珍裕子（ビジネス企画4年:鹿児島）をはじめ3名の部員がそれぞれ活躍し、「総合3位入賞」を獲得、3年連続のベスト3入りをはたした。

柔道　東海学生で4階級制覇

「第28回東海学生女子柔道体重別選手権」でみごと4階級を制覇。

48kg級　優勝　瀬戸口　彩（法2年:宮崎）
52kg級　優勝　吉野　千里（法4年:岐阜）
70kg級　優勝　國分　かおり（法4年:宮崎）
78kg超級　優勝　富山　美里（法4年:宮崎）

ホッケー　西日本で準優勝、東海では優勝

「第39回西日本学生ホッケー選手権」で準優勝に輝き、町谷航平選手（ビジネス企画4年:島根）が「最敢闘選手」に選ばれる。
「東海学生ホッケー選手権」で優勝。

相撲　全日本女子・全国学生個人選手権で準優勝

「第2回全日本女子相撲郡上大会」でみごと準優勝。
軽量級　準優勝　山元　佳美（ビジネス企画1年:岐阜）
重量級　3位入賞　野上　麻奈（ビジネス企画1年:富山）
「全国学生個人体重別選手権」で堂々の準優勝。
75kg級　準優勝　池本　行宏（経営4年:岐阜）
「第81回西日本学生相撲体重別選手権」
75kg級　準優勝　池本　行宏（経営4年:岐阜）
85kg級　3位入賞　知念　拓志（法2年:沖縄）

卓球
東海リーグを制覇

名古屋市名東スポーツセンターで開催された「東海学生卓球秋季リーグ戦」において、体育会卓球部は女子が「優勝」、男子は「準優勝」に輝いた。

最終戦まで男女ともに全勝（4勝）で迎えた最終日、宿敵愛知工業大学と優勝をかけて戦った一戦では、女子は本学卓球部の実力が勝り東海リーグを制覇、一方、男子は愛知工業大学に敗れ「準優勝」に甘んじた。この悔しさをバネに、来シーズン「男女アベック優勝」を目標に掲げた卓球部のスタートはすでに切られた。

子供たちに基本動作を指導する選手

卓球フェスティバル

また、選手たちは岐阜アリーナ（岐阜市）で開催された「卓球フェスティバル」に参画。参加者約300名を前に、共に日本リーグ女子（1部）で戦う十六銀行の選手たちと親子卓球教室の講師として模範演技を披露し、卓球の魅力を伝えた。

ラグビー
福島市で実技指導

吉川監督らの熱い指導を受ける選手たち

体育会ラグビー部の吉川充監督（職員）と福島県出身の学生2名が、福島市ラグビーフットボール協会主催の実技講習会の講師として招かれた。吉川監督らはラグビーを通じて被災地の一日も早い復興に役立てばと、同市内の聖光学院高等学校とあづま運動公園で実技指導を行った。

がんばれ福島

東日本大震災の影響などが心配されたが、講習会には高校生ら約200名がグラウンドでの実技指導や体育館での講習会に参加。吉川監督らの熱い指導を受ける選手たちが、真剣な眼差しでひたむきに練習に励んでいたのが印象的であった。

学生の不祥事に対するお詫び

このたび、10月21、22日に報道がございました本学学生の不祥事に対しまして被害者の方々ならびに関係者の皆様に多大なるご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

本日、当該学生の処分と所属クラブの無期活動停止を決定するとともに、今後の再発防止・学生指導に全力をあげて取り組むこととといたします。

2011年10月22日
朝日大学 学生部長（兼 体育会会長） 山本 英弘

NEWS

みんなの日本 がんばろう日本人

秋季学位記授与式

学位記・修了証書が一人ひとりに授与された

秋季学位記授与式ならびに修了式が、9月17日（土）に穂積キャンパス6号館大講義室において華やかに挙行された。

今秋の卒業生・修了生は、学部卒業生20名、大学院修了生3名、留学生別科修了生22名。式典では大友克之学長から、学位記、修了証書が一人ひとりに手渡され、卒業生らは緊張しつつも充実感に満ち溢れた面持ちで学位記を受領していた。

新たな門出を祝福

新たな門出を祝福し記念撮影

教職員・父母等に拍手で送り出された卒業生たちは皆、朝日大学での学生生活の日々を振り返りながらも、これから始まる新生活への希望に満ちた表情であった。また、式典終了後には、卒業記念パーティーが6号館ホールで開かれ、華やかなパーティー会場では、卒業生たちが新たな門出を互いに満面の笑顔で祝福し合っていたのが印象的であった。

課題解決・専門性向上講座

岐阜県内の商業高等学校教諭を対象とした「課題解決・専門性向上講座」が総合教育センター（岐阜市）において開講された。

同講座では、新学習指導要領の新設科目である「商品開発」の指導内容に対応した講座として、本学マーケティング研究所の中畑千弘所員（経営学部教授）が講師を務めた。

ワークショップで実践

中畑教授は、大企業を中心とした商品開発の事例を取り上げた新しいマーケティングの考え方などを解説。参加者はワークショップで「防災用品」を題材に、アイデア開発からコンセプト立案、ネーミング・キャッチコピー設定までのプログラムを実践した。

また、商品開発の企画・開発を実践的・体験的に授業で展開すべく、各高等学校の事例についてさかんに意見・情報交換が行われ、反響の高い講座となった。

東日本大震災義援金を寄付

法学部防犯ボランティア団体「めぐる」と「劇団朝日」のメンバーたちが、岐阜新聞本社（岐阜市）を訪れ東日本大震災義援金の寄付を行った。

この義援金は、両団体が前学期学友会表彰において受け取った奨励金で、被災地のことを思い学生みんなで寄付することを決めたとのこと。

メンバーの中には、夏季休暇を利用し被災地のボランティア活動に参加した者もあり、後学期がはじまりキャンパス内には頼もしく成長した姿があった。

義援金を寄付したメンバー

秋季入学式を挙行

すがすがしい秋空の下、2011年度朝日大学秋季入学式が、9月20日（火）に穂積キャンパス6号館大講義室にて厳粛に挙行された。

今秋の入学者は総員51名（学部入学者13名、大学院入学者1名、留学生別科入学者37名）であった。学長告辞を緊張した面持ちで受けた新入生の新たなページがここ朝日大学でスタートすることとなり、有意義で充実した学生生活が送られることを期待する。

建学の精神遵守を誓う

入学の宣誓が新たな気持ちを胸に力強く行われた

入学式では、大友克之学長から、入学許可に引き続き、「建学の精神に基づき朝日大学での勉学・研究にそれぞれが邁進し、有意義な学生生活を送ってください」と告辞が述べられ、入学生の代表からは、「建学の精神を遵守し、学業成就に向けて日々努力します」との力強い宣誓が行われた。

新入生たちは、建学の精神（国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間的知性の富む人間の育成）を胸に、また、これから始まる朝日大学でのひかり輝くキャンパスライフに、希望に満ちあふれた表情であった。